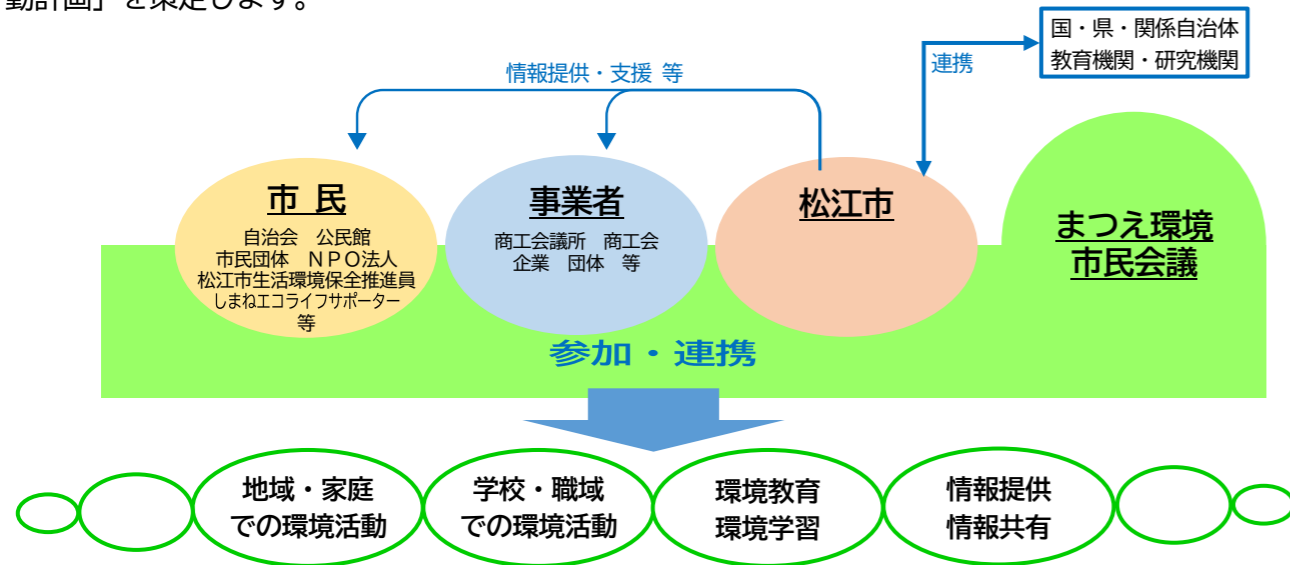


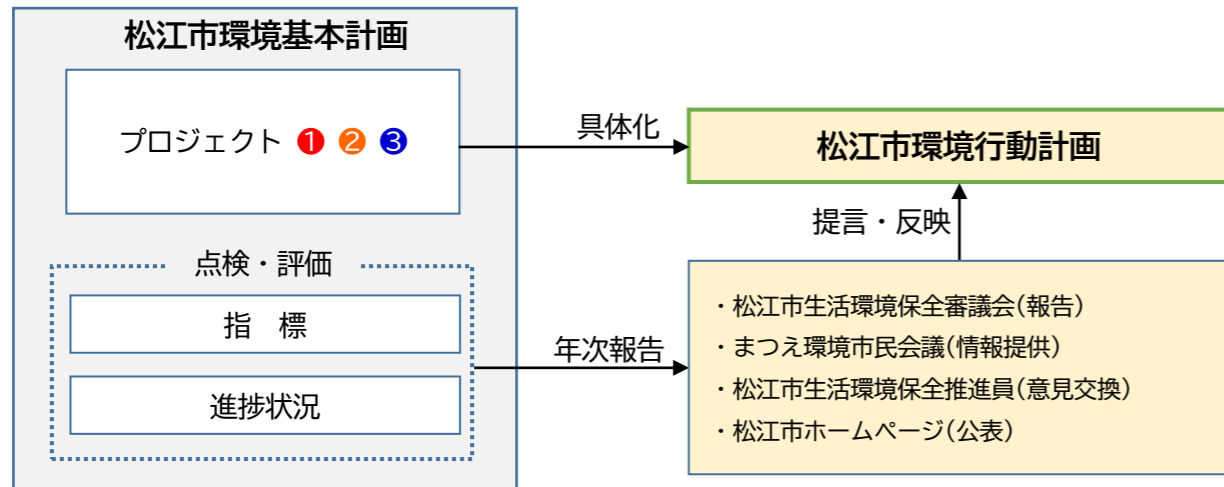
▶ 推進体制

各種計画との整合を図りながら、庁内関連部署間での議論や、市民・事業者・行政の連携・協働により、分野横断的かつ多角的視点に立った施策の推進をめざし、施策の実施・実現に向けた詳細な計画となる「松江市環境行動計画」を策定します。



▶ 進行管理

計画の進捗状況を毎年度確認し必要に応じて改善していくため、PDCAサイクルにより継続的な改善を図ります。



SDGsと取組の関連づけ

計画の各取組をSDGsのいずれかのゴールに関連づけ、国際課題への対応と、環境、社会、経済に関わる複合的な課題解決の取組であることの意識づけを示します。

【SDGs(持続可能な開発目標)とは】

2030年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標です。



《基本理念》

未来の環境のため、地球を取り巻く環境問題に正面から取り組みながら、豊かな自然環境の保全や美しい生活環境の維持にも注力し、高い意識に根差した市民の行動が、環境課題の解決に向けた取組の模範となるようなまち「環境主都<sup>※1</sup>」をめざします。

《重点目標》

豊かな自然環境を保全・活用しながら、環境にやさしい暮らし・社会への転換を促し、温室効果ガス(二酸化炭素)の排出を可能な限り削減することにより、「脱炭素社会(カーボンニュートラル)の実現」をめざします。

基本理念

世界に誇る環境主都まつえ

重点目標

脱炭素社会の実現  
(カーボンニュートラル)

① スマートライフ推進プロジェクト  
(環境にやさしい暮らし・社会への転換)

② 4R推進プロジェクト  
(資源循環とまちの美化)

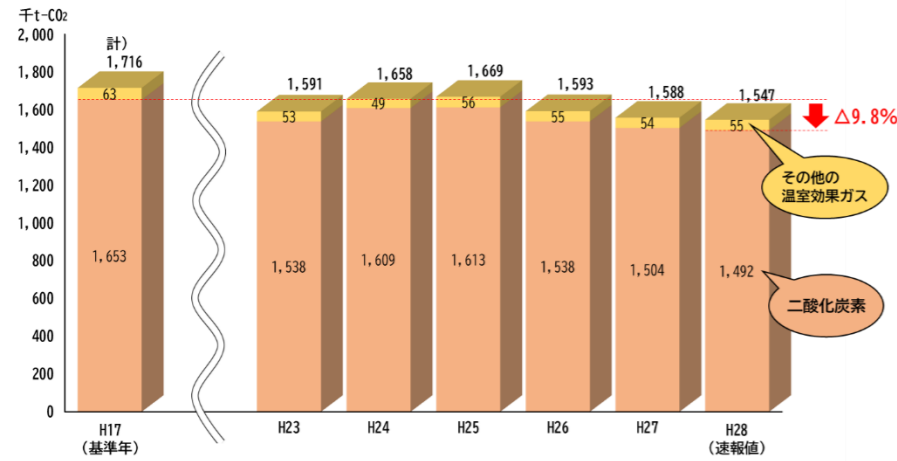
③ 自然共生プロジェクト  
(豊かな自然と歴史文化の調和)

共創・協働

※1「首都(中央政府のある都市)」とは異なり、地方の主要都市を意味します。本計画では、環境を大切にする取組が他の自治体や地域の模範になる都市という意味で「環境主都」を用いています。

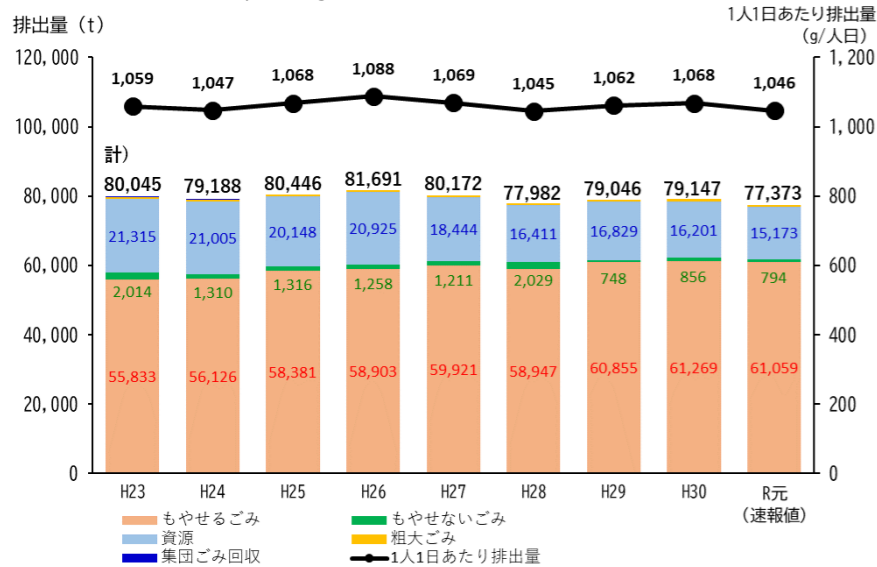
▶ 温室効果ガス(二酸化炭素)排出量の推移

二酸化炭素排出量は、平成 28 年度時点で 1,492 千 t-CO<sub>2</sub> あり、基準年の平成 17 年度と比較して 9.8%減少しています。



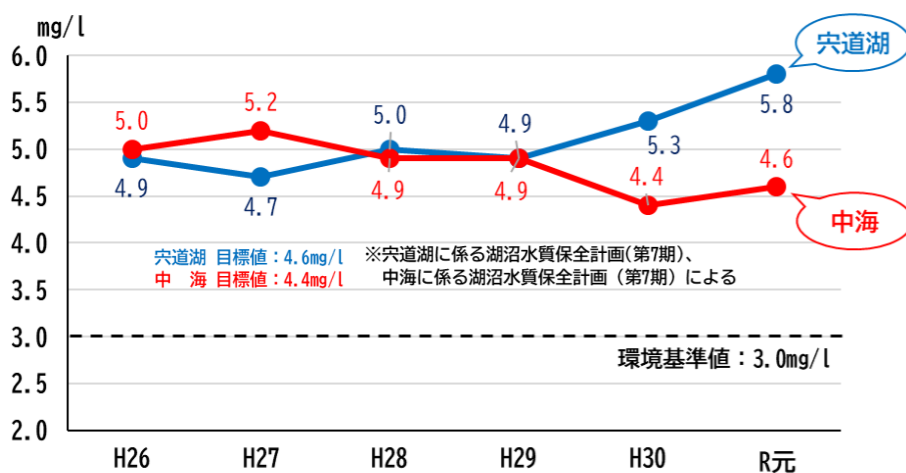
▶ ごみ排出量の推移

令和元年度のごみ排出量は、約 77,373t で、市民1人1日あたりのごみ排出量は 1,046g でした。



▶ 宍道湖・中海における COD75% 値の推移

宍道湖・中海の COD75% 値は、環境基準を達成していませんが、長期的には改善の傾向にあり、目標値に対しては概ね良好な水質を維持しています。



世界に誇る環境主都まつえ・脱炭素社会の実現に向けて、3つのプロジェクトに共創・協働により取り組みます。

① スマートライフ推進プロジェクト  
(環境にやさしい暮らし・社会への転換)



▶ 二酸化炭素の排出抑制・吸収促進に向けた実効的な対策を進め、環境にやさしい暮らし・社会への転換と定着を図ります。

▶ 推進する取組

- 二酸化炭素の排出抑制・吸収促進
- 省エネルギーの取組の推進
- 再生可能エネルギーの導入促進
- 車社会への取組の推進
- 環境ビジネスの振興

▶ 主な重点取組

- カーボンオフセットの取組の検討
- 省エネルギー行動の促進に向けた啓発の充実
- 再生可能エネルギーの導入支援の拡充と導入促進
- エコカーへの転換の促進

▶ 主な指標

- 二酸化炭素排出量  $\frac{H28}{R元}$  1,492 →  $\frac{R7}{R元}$  1,186 千t-CO<sub>2</sub>
- エコカーの導入割合  $\frac{R元}{R元}$  24.9 →  $\frac{R7}{R元}$  40%

② 4R推進プロジェクト  
(資源循環とまちの美化)



▶ 4R運動の推進により、ごみ分別の徹底・減量化・資源化を促進し、資源循環型社会を形成します。また、「松江市きれいなまちづくり条例」に基づき、まちの美化を図ります。

▶ 推進する取組

- ごみ分別の推進
- ごみを減らそう運動の推進
- 再使用・再生利用の推進
- 清掃活動の推進
- ごみのないまちづくり

▶ 主な重点取組

- 食品ロス削減に向けた取組
- 脱プラスチックに向けた取組
- 海岸等漂着ごみ対策

▶ 主な指標

- 1人1日あたりごみ排出量  $\frac{R元}{R元}$  1,046 →  $\frac{R7}{R元}$  971g/人日
- 1人1日あたり食品ロス発生量  $\frac{R元}{R元}$  59.1 →  $\frac{R7}{R元}$  45 g/人日
- 海岸等漂着ごみボランティア清掃参加者数  $\frac{R元}{R元}$  5,703 →  $\frac{R7}{R元}$  6,700 人

③ 自然共生プロジェクト  
(豊かな自然と歴史文化の調和)



▶ 豊かな自然と歴史文化の調和により、環境活動に関わる機会の創出や環境問題への意識醸成を図り、環境の保全や活用に向けた意識を高めていきます。

▶ 推進する取組

- 自然とのふれあい
- 環境にやさしい観光地づくり
- 環境に配慮した開発・整備
- 水環境の保全
- 緑の保全
- 生物多様性の確保
- 環境監視・公害対策
- 有害化学物質対策

▶ 主な重点取組

- ラムサール条約湿地の活用
- ジオパークや国立公園の活用
- 歴史・文化的な資源を活用したイベントや学習会の開催

▶ 主な指標

- 歴史・文化的な資源を活用した環境学習への参加者数  $\frac{R2}{R元}$  101 →  $\frac{R7}{R元}$  150 人
- 水辺の公共空間活用日数  $\frac{H30}{R元}$  170 →  $\frac{R6}{R元}$  174 日
- 宍道湖の水質 (COD75%値)  $\frac{R元}{R元}$  5.8 →  $\frac{R7}{R元}$  4.6mg/l

共創・協働



▶ 環境問題の理解を深め、環境を守るために自ら考えて行動できる人づくりを進め、「まつえ環境市民会議」を中心とした、市民・事業者・行政の協働による活動を推進します。

▶ 推進する取組

- 環境教育の充実
- 活動推進組織・ネットワークづくり
- 情報提供の充実
- 環境保全活動への参加意識の高揚